J-SIP-B150

M8-20

大学のアイデンティティ抽出に向けた試み
～北見工業大学を例とした取り組む研究からの考察～

○津川 渚奈於（北見工業大学 工学部 社会環境工学科 マネジメント工学コース）
内島 典子 （北見工業大学 社会連携推進センター）

１．はじめに

組織の独自性を意味する CI（コーポレイト・アイデンティティ、カレッジ・アイデンティティ）は、組織が行動の判断や経営戦略の策定、シンボルの設定など、その基本的な方針にかかわる決断を行うに際し根底に置き意識すべき重要な概念である。大学においてもそれらは日常的な各種活動の背景となり、確立し定着した CI の存在により共有される組織の価値観は教員・職員・学生をコアとする全ステークホルダの望ましい思考や行動の源泉となる。産学官連携活動においても CI は同様の意味を持つが、一方で産学官連携面での大学のアイデンティティの認識も、大学の CI 確立に向け極めて重要である。その観点から筆者らはこれまで、産学官連携活動実績から大学のアイデンティティを抽出することを試みてきた。本研究では北見工業大学研究者の研究実績を題材とし、その解析によるアイデンティティの抽出を試みた。

２．研究方法

北見工業大学のホームページ（以下、HP）[1)]と国立情報学研究所学術情報ナビゲータ（以下、CiNii）[2)]から研究者の研究テーマを抽出した。主として研究テーマおよび抄録から、明らかに北見工業大学が位置する北海道北東部の地域、「オホーツク地域」らしさが感じられるキーワードを有する研究を抽出した。なお、「『オホーツク地域』らしさ」を表す概念として、亜寒帯気候、広大、豊かな自然、それらを活かした第一次産業などのキーワードを挙げ考察を行った。

北見工業大学は工学部 6 学科で構成される。本研究では社会環境工学科に所属する研究者 26 人を対象とした。

３．結果・考察

HP および CiNii からの社会環境工学科に所属する研究者の論文総数は 526 件であった（平成 28 年 8 月 24 日時点）。なお、論文連名者もそれぞれにカウントした。**表１.** は研究テーマおよび抄録から得た「オホーツク地域」らしいと感じられたキーワードを示す。凍上、寒冷地、ハイドレート、雪氷・雪など、22 個のキーワードが挙げられた。これらのキーワードを広義に捉え、雪や氷、低温下での現象などを扱っているものを「寒冷地」、湖や生態など自然によるものを「自然環境」へと分別した。**表１.** に示すこれらのキーワードを含む論文の数は 216 件であり、全体の 41%を占めた。それら 216 件のうち、「寒冷地」に関する研究が 190 件で 88%、「自然環境」が 26 件で 12%であった（**図１.**）。また、それら 216 件の論文に関わっている研究者数は 19 人であった。キーワードが“凍上”である論文数が最も多く 43 件あり、論文全体の 8.2%を占めた。また、“寒冷地”に関しては、社会環境工学科に所属する研究者の 34.6%に相当する 9 人の研究者が関連する研究を行っていた。

上記研究実績の解析により、北見工業大学のアイデンティティを表す概念の一つとして、「寒冷地」を挙げることができると考えた。

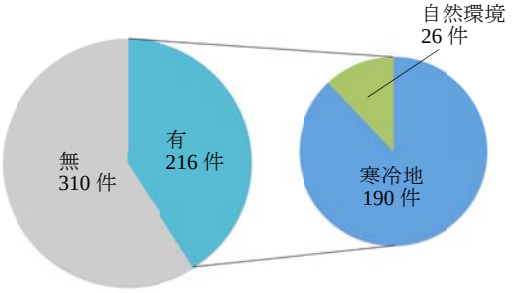

図１. 北見工業大学における研究実績から見た独自性の有無（北見工業大学社会環境工学科研究者 26 人を対象とした研究論文 526 件）

表１. 研究実績からオホーツクらしさを感じ取れるキーワードの抽出一覧

寒冷地	凍上、寒冷地、雪氷・雪、雪氷学、雪結晶、南極、冬季、極域、シベリア、積雪、氷床、低温、氷、凍害、凍結、氷河、融雪、流氷	以上、18 個
自然環境	ハイドレート、観光、海跡湖、僻地	以上、 4 個

参考文献
1) 北見工業大学 http://www.kitami-it.ac.jp/ 2) 国立情報学研究所学術情報ナビゲータ（CiNii）http://ci.nii.ac.jp/